

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 多機能型事業所ちゃちゃまる		
○保護者評価実施期間	令和7年1月20日		～ 令和7年2月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	令和7年1月20日		～ 令和7年2月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	基本的な生活習慣、お友だちとのコミュニケーション、社会性を育むために様々な取り組みから、個々に合った支援プログラムを立てています。放課後等デイサービスも同じ空間で過ごしますので異年齢とのかかわりから学べる環境となっています。個別、集団など子どもたちに寄り添った支援を組み合わせ提供できるように支援を行っています。	個々の支援目標を、職員間で共有し見通しのある支援が提供できるように毎日ミーティングを行って、支援内容を決めていきます。その日の天気や、子どもたちの健康状態にも配慮しながら、楽しく充実した支援を心がけています。	支援の幅を広げるために、積極的に研修等に参加し支援の質を高めてられるようにしていきたいと思っています。
2	異年齢とのかかわりながら、小集団での療育活動を行い、かかわりの中で職員が個別で介入しながら安心・安全に活動することが出来ます。一緒に活動する楽しさや、喜びを分かち合う機会を大切にしています。	上級生が幼児のお世話をする機会も設けており、良いお手本を見ることで、こうなりたい、やってみたいという意欲につながられています。そのような取り組みを増やし、向上心を持たせられるようにしています。	かかわりの時間が短いのですが、活動の工夫などを行い、楽しさを共有していけるようにしていきます。
3	職員間の関係性が良く、情報共有が行き届く環境が出来ています。	気付いたことをお互いに話し合うことが出来るように、こまめにミーティングを行い情報共有が出来るようにしています。	今までと同じく密にミーティングを行っています。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所の構造、設備等がバリアフリー化されていません。	決められた構造なので危険なところは把握し、滑らない工夫や補強をしています。	部屋の行き来があり、走り回るなどの危険を伴う場合があるので安全確保が必要だと考えています。
2	地域の人々子ども達との交流がほとんど参加できていません。	利用時間や曜日に交流する機会が難しいということが現状です。	長期休みなどを通して、交流出来る機会を見つけて参加出来るようにしたいと思います。
3			